

事業名 CD		地域に根ざした学校給食推進事業
細分化した事業名		地域に根ざした学校給食推進事業
事業担当課室 CD	500100	教育課
		整理コード*

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり
	中項目	子どもが夢を持ち続けることができる教育の充実
	小項目	学校教育の充実
関連する個別計画等		根拠条例等
関連する事業		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	市内小中学校において、栄養教諭を中核とし食教育の充実を図り、自らが健康を保持できる知識を養う。また、併せて、地域の食材への理解・郷土愛も培う。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	市内小中学校児童生徒
これまでの改善経過	平成 19 年度より文部科学省の指定事業として葦崎西中学校を実践中心校として実施。(単年度事業) 平成 22 年度をもって文部科学省の指定事業は終了
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 <input type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 ( ) 各校の栄養職員がそれぞれ中心となって、総合の授業や教科と併せて食教育を進める。 地域の農家で食農体験を実施したり、親子料理教室等を実施する。 広報を利用した啓発。
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	地域の食産物への感謝や消費理解を深めつつ、体験型の食学習で、自らの健康を保持増進するための知識を養う。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20 年度	21 年度	22 年度
A	事業費 (千円)	2,358	1,001	326
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金	2,347	1,000	326
	市債			
	その他			
	一般財源	11	1	
B	担当職員数(非常勤   職員 E) (人)	0.1	0.1	0.05
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)	672	672	336
D	総事業費(A+C) (千円)	3,030	1,673	662
* 参考	H22)市民1人当りの事業コスト	21 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注 1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注 2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20 年度(6,909 千円)、21 年度(6,823 千円)、22 年度(6,719 千円)を使用しています。

注 3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	全児童生徒数	(人)		2,943	2,858
	栄養教諭数	(人)		1	1
	市長ふれあい給食試食会実施	(回)		7	4
成果指標	給食献立地産地消率(食品数)	地場産物食品数/全食品数(%) (185品/635品)		29.65	29.13
	米飯率	週米飯回数/週給食回数(%) (3回/5回)		64.0	60.0
効率指標	一人あたりの事業費	総事業費/児童生徒数 (326千円/2,858人)		340.0	114.0

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 各校給食担当職員を中心に、体験活動など地域にあった食教育を工夫して実施している。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 食農体験や料理教室の機会を設けることで、児童生徒・保護者が食について考えるきっかけになっている。また、市内全校の給食の残食量はきわめて少なく、成果が出ている。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 効率的である <input type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 教科や教材を利用し、少ない事業費の中で有効な事業実施ができた。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 現行のとおり	(2) 24年度 現行のとおり	(3) 23年度 現行のとおり
	22年度の改善計画		
22年度の改善結果			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)			
課長所見 ま	少ない事業費の中で食教育に有効な活動を見極め、今後も継続して実施に努める。また、食育と並行して地域で生産された農産物を地域で消費するための仕組みづくりが必要である。		